

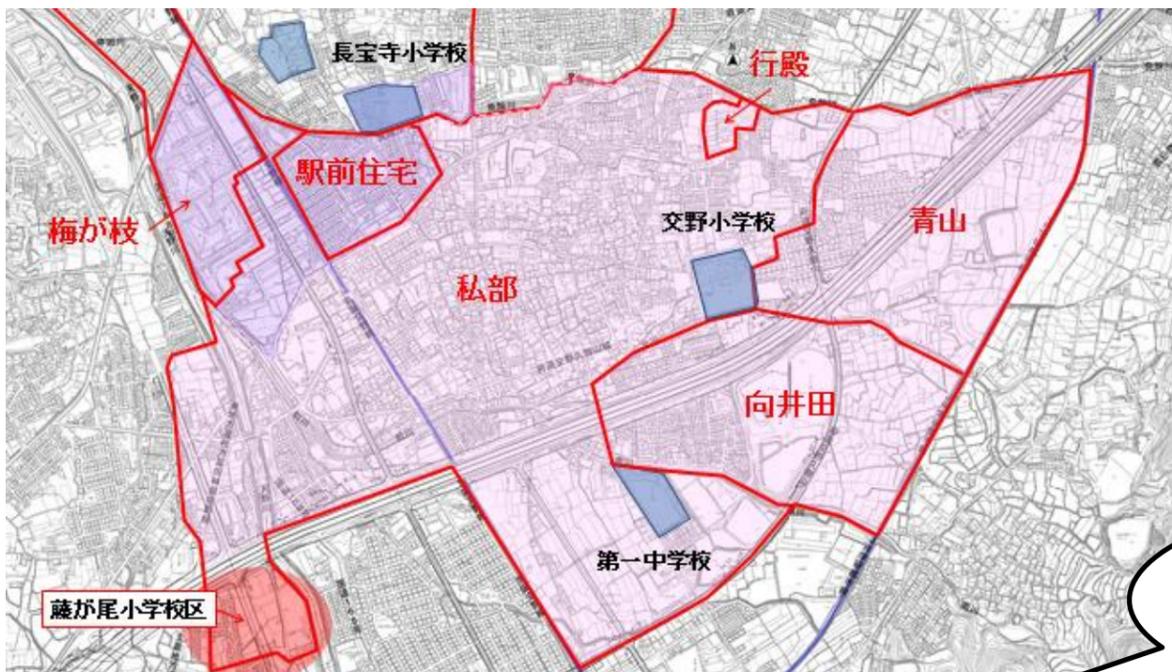
# 第一中学校区の適正配置案

# 第一中学校区の適正配置案（1）

## ◆ 校区変更（案）

現況校区図

（学校数 3）



### ～第一中学校区の課題～

#### 交野小学校

学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。

#### 長宝寺小学校

現在、小規模状態であり今後も適正規模になる見込みがない。

#### 第一中学校

学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。

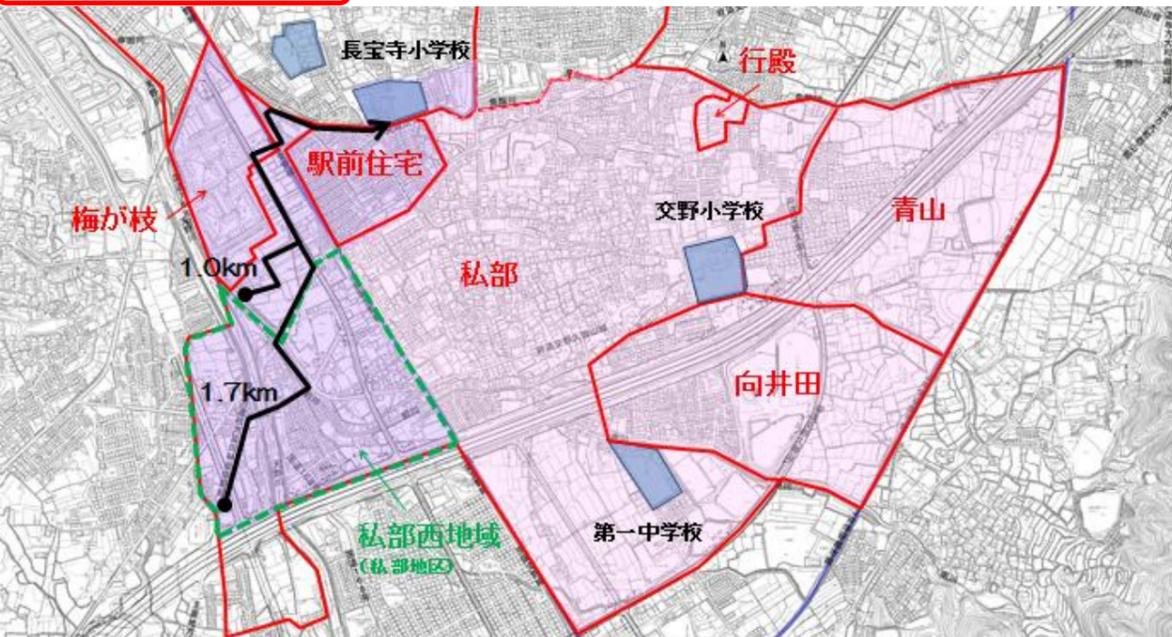
平成28年時点  
小学生：120人程度（1学年20人程度）  
幼児：110人程度（1学年18人程度）



私部西を長宝寺小学校区へ編入

### 校区変更案(1)

（学校数 3）



#### メリット

- ・一時的に長宝寺小学校の小規模状態が解消される。
- ・校区変更により小学校への通学距離は大きく変わらない。
- ・中学校区の変更はない。

#### デメリット

- ・交野小学校の児童数・学級数が減少する。
- ・長宝寺小学校は、将来再度小規模化するおそれがある。

# 第一中学校区の適正配置案（2）

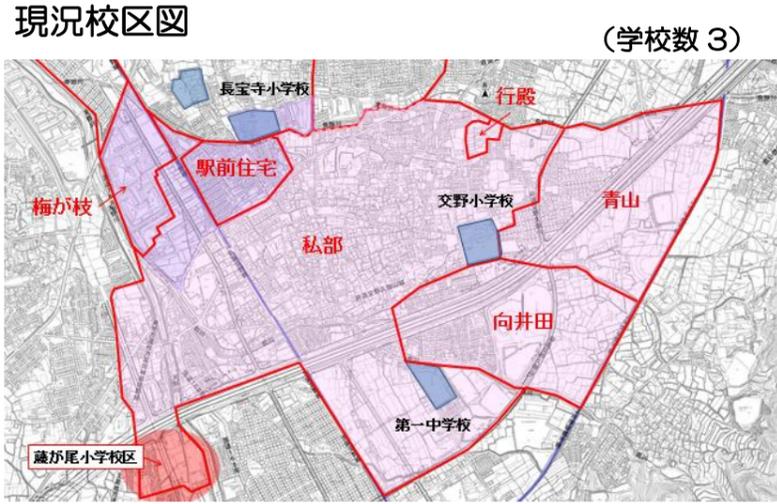
## ◆ 小学校統合（案）

～第一中学校区の課題～

**交野小学校**  
学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。

**長宝寺小学校**  
現在、小規模状態であり今後も適正規模になる見込みがない。

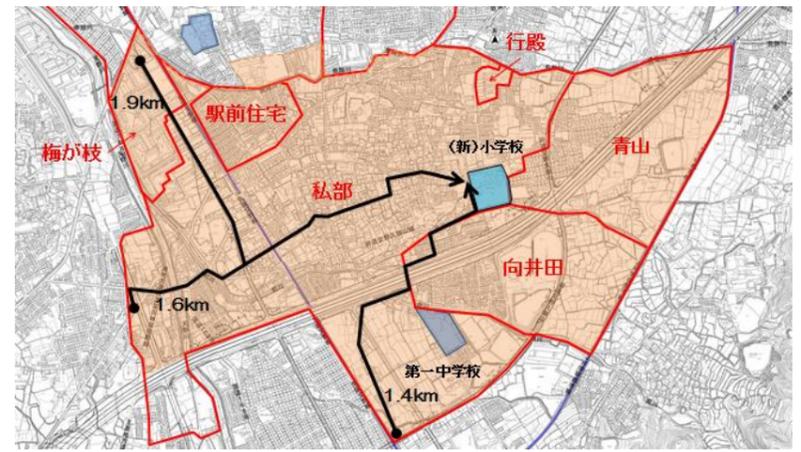
**第一中学校**  
学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。



小学校統合（交野、長宝寺）  
交野小学校敷地

小学校統合（交野、長宝寺）  
長宝寺小学校敷地

### 学校統合案(1)



(交野小学校敷地面積：22,960㎡)

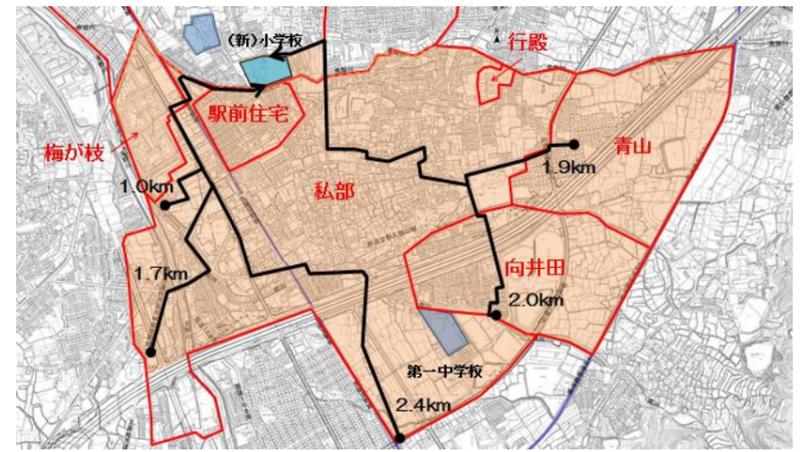
#### メリット

- 統合後の学校では、平成52年まで、適正な学校規模を維持する見込みである。
- 隣接する旧給食センター跡地（1,987㎡）を活用することで、敷地面積が大きくなる。
- 長宝寺小学校の小規模状態が解消される。
- 交野小学校施設の老朽化の課題が解消される。
- 小中学校間の距離が近いので、小中一貫教育を行う上で、教職員や児童生徒の移動がしやすい。

#### デメリット

- 通学距離が延びる地域がある。

### 学校統合案(2)



(長宝寺小学校敷地面積：21,745㎡)

#### メリット

- 統合後の学校では、平成52年まで、適正な学校規模を維持する見込みである。
- 長宝寺小学校の小規模状態が解消される。
- 交野小学校施設の老朽化の課題が解消される。

#### デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域があるなど、通学距離が延びる地域がある。
- 小中学校間の距離が遠いので、小中一貫教育を行う上で、教職員や児童生徒の移動がしにくい。
- 第一中学校区の端にあり、地域の拠点となりにくい。

※各案とも中学校への通学距離に変更なし

# 第一中学校区の適正配置案 (3)

## ◆ 施設一体型の小中一貫教育実践校 (案)

### ◇ 各敷地案共通のメリット

- ・長宝寺小学校の小規模状態が解消される。
- ・第一中学校及び交野小学校の老朽化の課題が解消される。
- ・統合後の学校では、平成52年まで、適正な学校規模を維持する見込みである。
- ・小中一貫教育の成果を認識しやすい。

### ～第一中学校区の課題～

#### 交野小学校

学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。

#### 長宝寺小学校

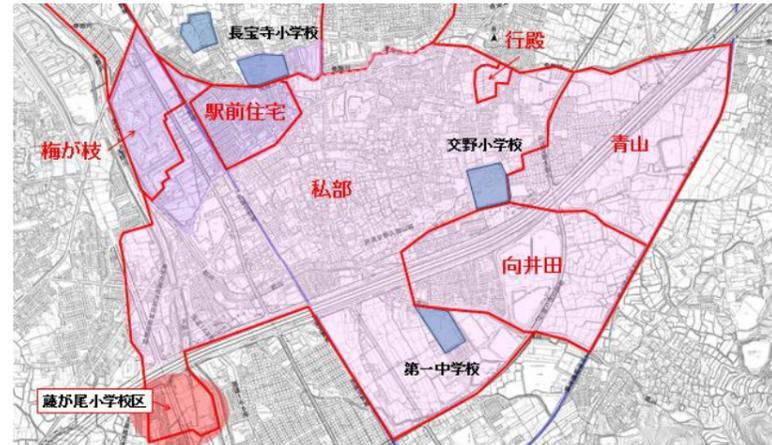
現在、小規模状態であり今後も適正規模になる見込みがない。

#### 第一中学校

学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。

現況校区図

(学校数 3)



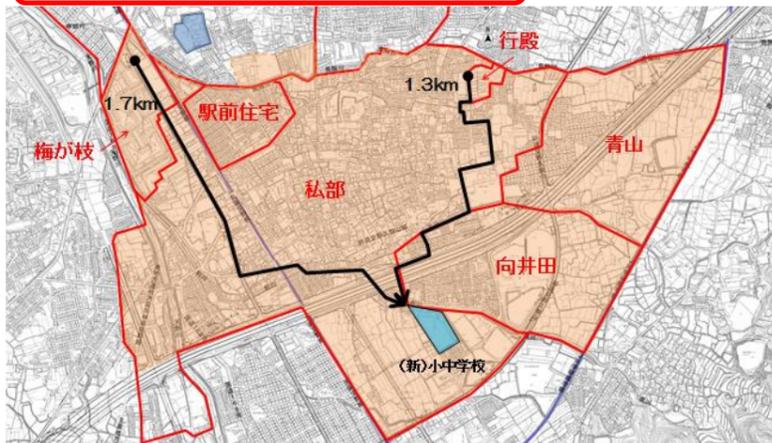
第一中学校敷地

交野小学校敷地

長宝寺小学校敷地

### 小中学校統合案(1)

(学校数 1)



#### メリット

- ・隣接する総合体育施設や私部公園を活用できる可能性がある。

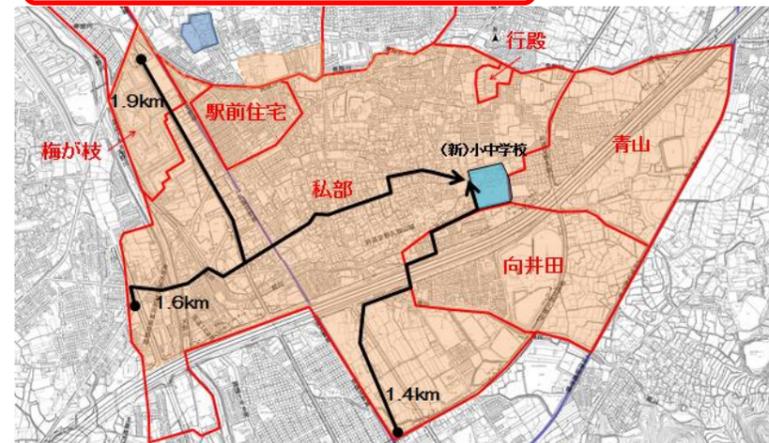
#### デメリット

- ・第一中学校、交野小学校、長宝寺小学校の3校の中で敷地面積が最も小さい。
- ・通学距離が延びる地域がある。

(第一中学校敷地面積：17,490㎡)

### 小中学校統合案(2)

(学校数 1)



#### メリット

- ・第一中学校、交野小学校、長宝寺小学校の3校のうち敷地面積が最も大きく、隣接する旧給食センター跡地(1,987㎡)を活用することで、さらに大きくなる。
- ・隣接する総合体育施設や私部公園の活用できる可能性がある。

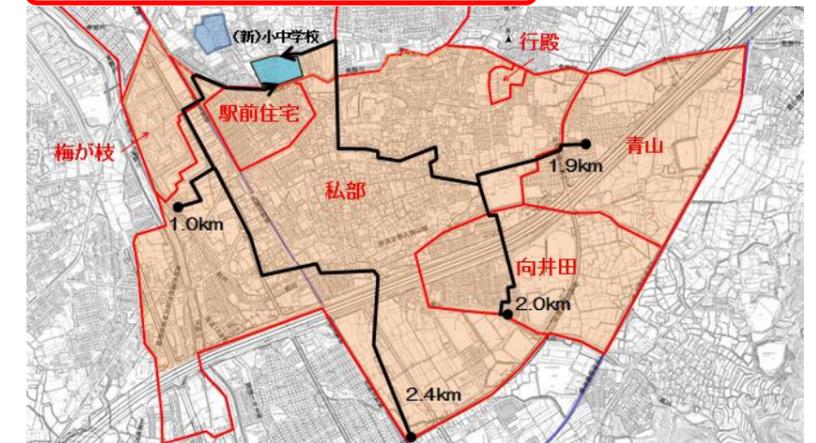
#### デメリット

- ・通学距離が延びる地域がある。

(交野小学校敷地面積：22,960㎡)

### 小中学校統合案(3)

(学校数 1)



#### メリット

- ・比較的敷地面積が広い。

#### デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域があるなど、通学距離が延びる地域がある。
- ・第一中学校区の端にあり、地域の拠点となりにくい。

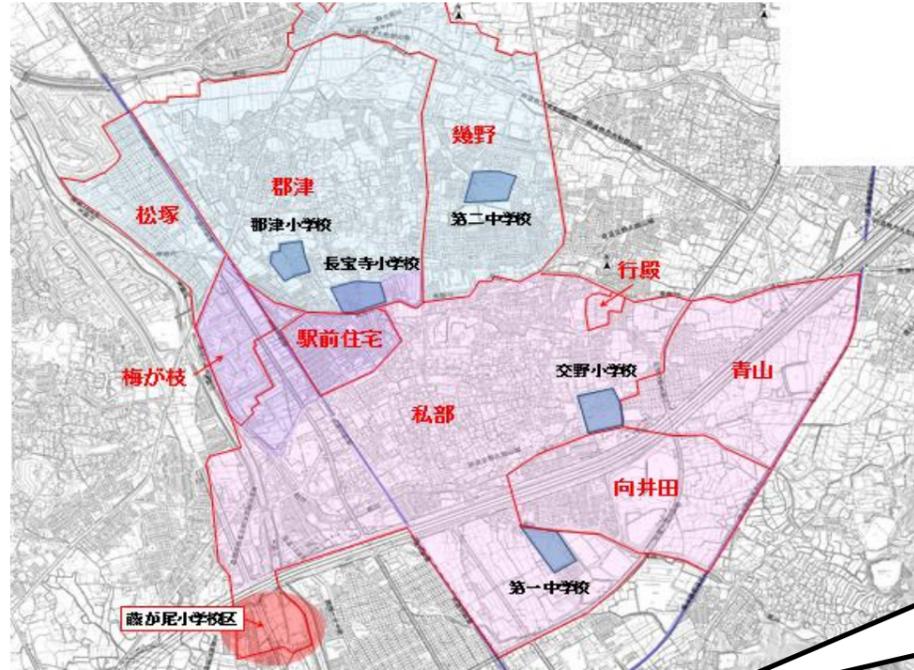
(長宝寺小学校敷地面積：21,745㎡)

# 第一中学校区の適正配置案（4）

## ◆ 校区変更（案）

現況校区図

（学校数 3）



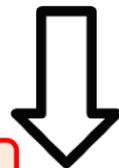
平成28年時点  
 中学生：35人程度  
 小学生：45人程度（1学年7～8人程度）  
 幼児：35人程度

～第一中学校区の課題～

**交野小学校**  
 学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。

**長宝寺小学校**  
 現在、小規模状態であり今後も適正規模になる見込みがない。

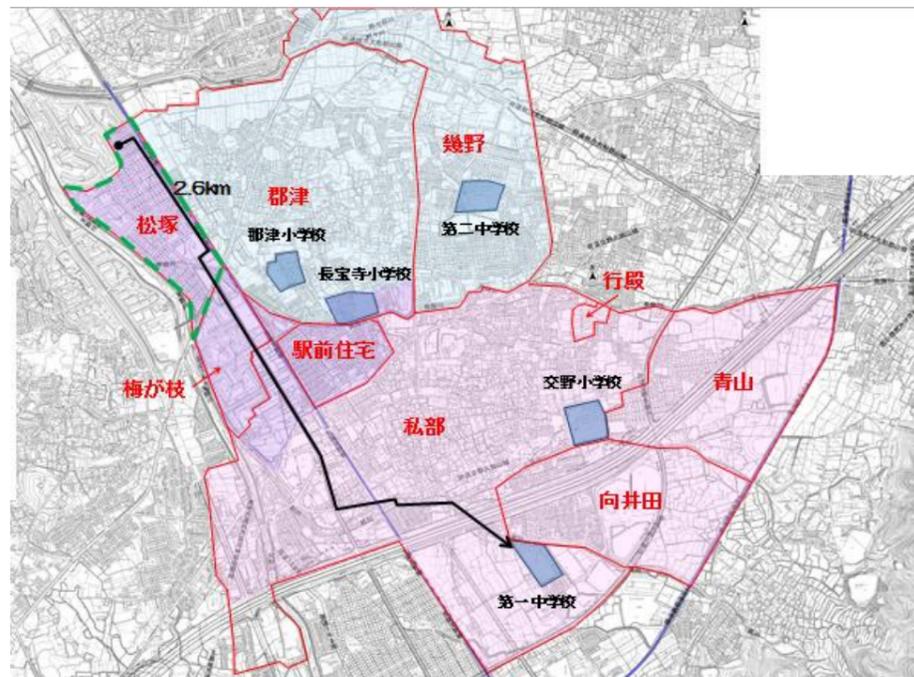
**第一中学校**  
 学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。



松塚地区を長宝寺小学校区へ編入  
 （緑破線内の地区）

**校区変更案(2)**

（学校数 3）



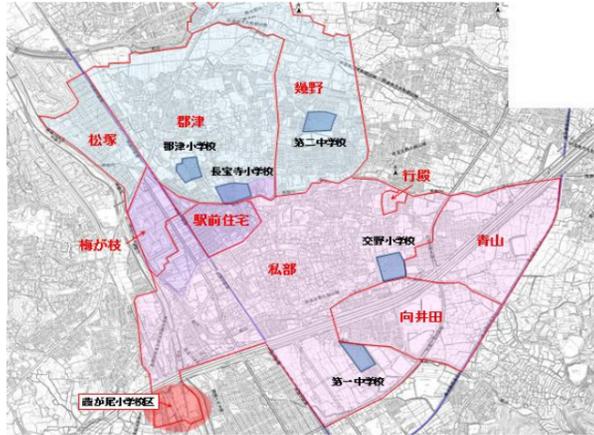
長宝寺小学校で、学年によって1学級または2学級の学年編成となる見込みで、小規模状態の解消には至らない。

# 第一中学校区の適正配置案（5）

## ◆ 小学校統合（案）

（学校数 3）

現況校区図



### ～第一中学校区の課題～

#### 交野小学校

学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。

#### 長宝寺小学校

現在、小規模状態であり今後も適正規模になる見込みがない。

#### 第一中学校

学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。

小学校統合（郡津、長宝寺）し、  
（新）小学校を第一中学校区とする場合

（学校数 3）

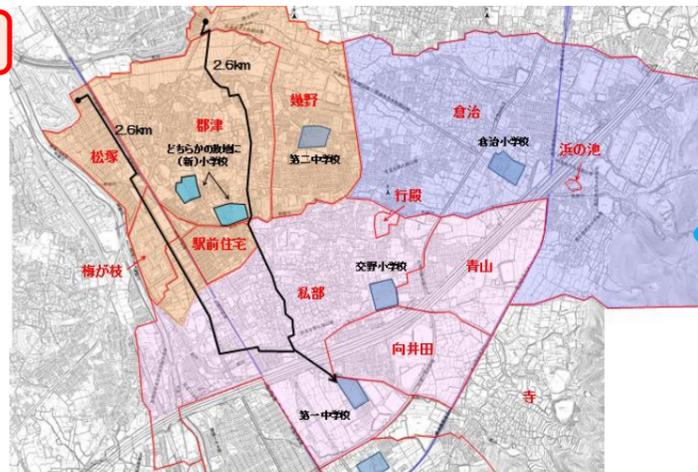
### メリット

- ・長宝寺小学校の小規模状態が解消される。
- ・郡津小学校の老朽化の課題が解消される。
- ・統合後の小学校では、平成52年まで、適正な学校規模を維持する見込みである。
- ・統合対象学校の学校間の距離が近いこと、小学校の通学距離に大きな影響が出ない。（中学校への通学においても、距離の面では大きな影響はない。）

### デメリット

- ・第二中学校施設が第一中学校区内に位置してしまうため、別の対策が必要である。（幾野地区の校区変更、または、倉治小学校敷地にて、小中学校の設置（校区は現倉治小学校区））  
 ↓ 中学校では将来、適正規模を維持できなくなる見込みである。
- ・幾野6丁目や松塚地区から、第一中学校までの通学距離が約2.6kmとなるなど、通学距離が延びる地域が多い。（第一中学校を統合後の小学校跡地に移転すると通学距離は解決される。）
- ・小中学校間の距離が遠いので、小中一貫教育を行う上で、教職員や児童生徒の移動がしにくい。
- ・校区コミュニティが大きく変更になる。

### 学校統合案(3)



（郡津小学校敷地面積：16,895㎡）  
（長宝寺小学校敷地面積：21,745㎡）

幾野地区を倉治小学校区  
（第二中学校区）へ校区変更

H28年度 幾野地区概算人数

	中学生	小学生	幼児
幾野地区	130人	200人	170人

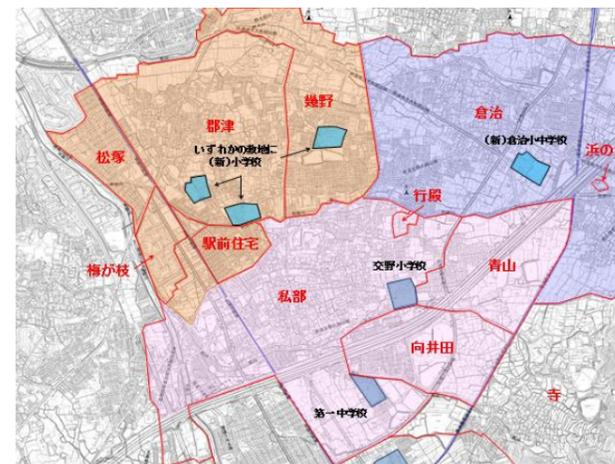
### メリット

- ・第一中学校区・第二中学校区ともに、適正規模となる見込みである。

### デメリット

- ・倉治小学校が適正規模を上回る見込みである。

倉治小学校区にて  
小中学校を設置



（新）倉治小中学校区で、  
中学校が適正規模を維持できない見込みである。

（学校数 3）

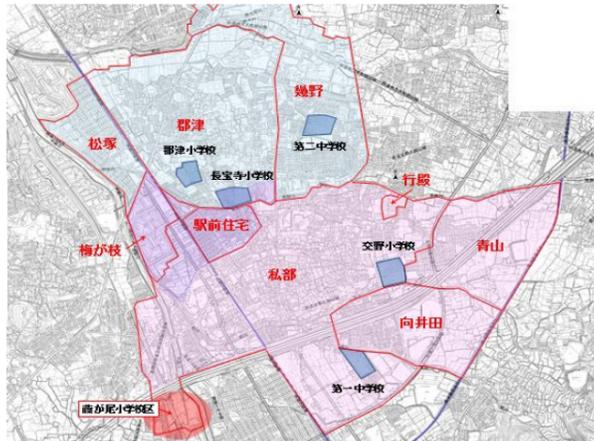
（学校数 3）

（倉治小学校敷地面積：24,651㎡）

# 第一中学校区の適正配置案（6）

## ◆ 小学校統合（案）

現況校区図



(学校数 3)

### ～第一中学校区の課題～

#### 交野小学校

学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。

#### 長宝寺小学校

現在、小規模状態であり今後も適正規模になる見込みがない。

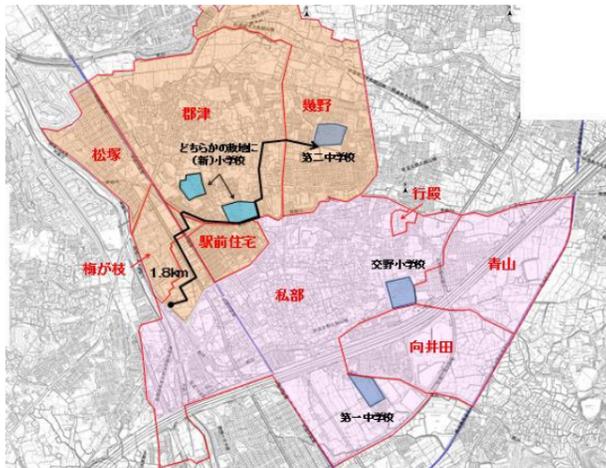
#### 第一中学校

学校施設の老朽化が進んでおり、更新時期を迎えている。

小学校統合（郡津、長宝寺）し、  
（新）小学校を第二中学校区とする場合

(学校数 2)

### 学校統合案(4)



(郡津小学校敷地面積：16,895㎡)  
(長宝寺小学校敷地面積：21,745㎡)

#### メリット

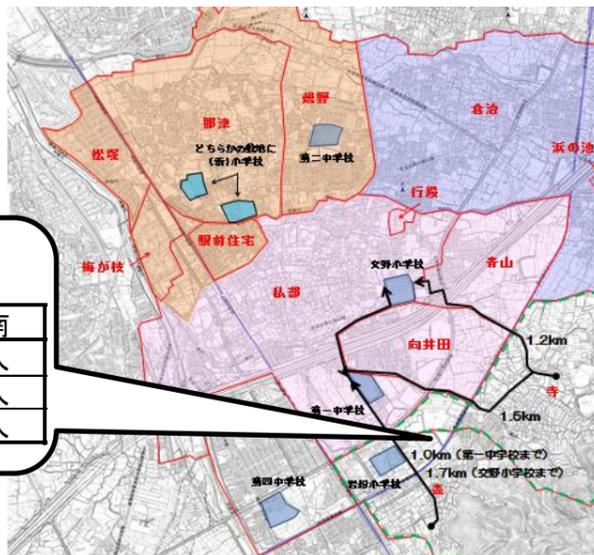
- ・長宝寺小学校の小規模状態が解消される。
- ・郡津小学校の老朽化の課題が解消される。
- ・統合後の小学校では、平成52年まで、適正な学校規模を維持する見込みである。
- ・統合対象学校の学校間の距離が近いため、通学距離に大きな影響が出ない。  
(中学校への通学においても、距離の面では大きな影響はない。)

#### デメリット

- ・中学校区をまたぐ学校統合となり、交野小学校・第一中学校の小規模化が進む。  
(特に第一中学校では、早期に1学年3学級を維持できない学年がでるなど、小規模化が進む見込みである。)
- ・校区コミュニティが大きく変更になる。

第一中学校小規模化への対応

(学校数 2)



平成28年度 概算人数

	寺	森北	森南
中学生	20人	20人	45人
小学生	55人	55人	70人
幼児	55人	45人	90人

### 寺地区を交野小学校区に校区変更した場合

#### メリット

- ・寺区の児童生徒の通学距離が短くなる。

#### デメリット

- ・長期的には、第一中学校の小規模化が解消されない。

### 寺・森地区を交野小学校区へ校区変更した場合

#### メリット

- ・寺地区の児童生徒の通学距離が短くなる。
- ・第一中学校の小規模化が解消される。

#### デメリット

- ・森地区の児童の通学距離が長くなる。
- ・岩船小学校施設が第一中学校区に設置されていることになり、また、適正規模を維持できなくなるため、天野が原町地区も藤が尾小学校または私市小学校へ校区変更する必要がある。
- ・第四中学校が小規模化するおそれがある。